

社会福祉法人 宝安寺社会事業部

福祉ほうあん

VOL. 131



ANNUAL REPORT

— 宝安寺社会事業部のいま —

お米を救おう!



農福
連携

はじめに —表紙の写真によせて—

うだるような暑さのなか、田んぼや用水路の巻貝を黙々と取る私たち。
巻貝の名は“スクミリンゴガイ”、通称ジャンボタニシ。
外来種で食用として入ってきたものですが、
今では稲の苗を食い荒らす厄介者です。



ほうあん第一しおんでは、小田原市からの委託を受け
6月～8月の3か月間、週3日、1日2時間半、
上曾我、永塚、東大友、千代地区の水田で
スクミリンゴガイの駆除作業を行っています。



正直に言うと、暑すぎて心が折れそうになることもありますが、
農家さんからの「ありがとう、本当に助かるよ」の声を励みに、
心を奮い立たせて働いています。

「おいしいお米がたくさんとれますように」

農家さんのために、地域のために、今日も汗をかきます。

小田原の農家の皆さま、いつも本当にありがとうございます。

(根府川の柑橘類[Re農地プロジェクト]、下中たまねぎ[俺たちのファーム]……)

これからも【農業×福祉】の可能性を信じて、
農福連携を進めていきたいと思えます。

check!!



宝安寺社会事業部の
法人Instagramで
日々の活動を発信！
ぜひご覧ください。
Instagram @houan1900



Contents

ほうあんふじみのさと.....03	小田原乳児園.....07	ほうあん第二しおん.....12
小田原愛児園.....04	ほうあんうみ.....08	県西地区民間提案事業の進捗状況.....14
ありがとう 小田原乳児園・小田原愛児園PTA.....05	ほうあんふじ.....09	子どもたちが幸せに生まれ育つ インクルーシブな地域づくりに向けて.....15
ほうあんホッと相談カフェ.....06	ほうあんのぞみ.....10	令和5年度決算報告.....15
	ほうあん第一しおん.....11	



ほうあんふじみのさと

事業内容：施設入所支援30名、生活介護支援35名、
短期入所支援・日中一時支援
所在地：小田原市曾我大沢7
電話番号：0465-41-4020

REPORT

“自分のことは自分で決める” 意思決定支援に取り組みました

利用者Aさんへの取り組みを紹介します。

1 選好*の経験を積む

好きなお店で好きな料理をテイクアウトして食べる“個別昼食”を毎月実施しました。複数の飲食店のメニューを用意して、自分が食べたいものを指してもらい実際に食べてもらいました。



好みは人それぞれ。今回は目玉焼きハンバーグです。

*好みに応じて選ぶこと

2 本人への理解を深める

Aさんについての支援者の理解を深めるために、日々のエピソードをグループウェアで共有しました。

【エピソード例】

- インターネットの動画を見ながら一緒に折り紙(星)を折りました。折り方を覚えるところまではいきませんでしたが、映像を見ながら自分で理解して折っているように感じました。
- 何かを訴える様子でしたが、最初はわかってあげられず悩んでいると鉛筆を削る動作(手を回す)をしてくれました。鉛筆削りを渡すと納得されていました。

3 地域資源を活用する

入所施設の中だけで暮らし完結しないことも大切な視点のため、地域の通所事業所を見学してもらいました。緊張した様子でしたが、笑顔も多く見られました。今後は体験的に活動に参加してもらう予定です。

4 コミュニケーションを支援する

“トーキングマット”というコミュニケーション支援ツールを使い、Aさんの揺れる心に見える化に挑戦しました。



テーマ(旅行、運動、映画、トイレ、風呂、着替え、料理など)に合わせたカードを1枚ずつ渡し、任意の場所に置いてもらいます。カードの内容に関連する質問もします。

～人生の主人公は自分～

意思決定支援は、支援者でチームを作り本人の人物像を理解することから始まります。出生時からこれまでのエピソード等について、家族やこれまで本人に関わってきた方から情報を集めて共有すると同時に本人の声を聞きます。意思を表明することが難しければ、「表出を受け止める支援」から始めます。選択肢を準備して選ぶ機会を保障し、選択肢が実現したり願いが叶ったりする経験を積んでもらいます。「自分の思いを伝えてもよいのだ」という肯定的な体験となり、意思表出の豊かさに変化が現れています。支援者にも「利用者さんにもっと色々なことに挑戦してもらいたい」と変化が現れています。“人生の主人公は自分”このことを大前提にこれからも私たちは利用者さんと共に歩んでいきます。

ボランティアを募集しています!

清掃



草むしり



衣類補修



作品の仕上げ



利用者さんとの交流



ふじみのさとの使命の1つに「ふじみのさととは開かれた施設を目指しみんなの架け橋となります」があります。クリーン作戦(清掃活動)や、災害時にふじみのさとを避難所として使用することができるように曾我大沢自治会や上曾我自治会と協定を結ぶなど地域との繋がりを大切にしています。コロナ禍以降、ふじみのさとの利用者さんが地域の皆さんと関わる機会も減っていましたが、外部からのボランテ

ィアを募集し、「開かれた施設」を目指して地域交流の場を作っていきたいと思っています。そこで、ボランティアを募集します。現在、衣類の補修や草むしり、農園のお手伝いなどでボランティアの方々が活躍してくださっています。利用者さんが笑顔で自分らしくいられるよう、そして地域の皆さんが集い活気溢れる場所となるよう地域交流をしていきたいと思っています。

お問い合わせ

0465-41-4020



小田原愛児園



モリモリ……

子ども主体の保育

子ども主体の保育の実現に向け、子どもたちの「やってみよう!」「ワクワクする!」という思いに寄り添いながら保育を行いました。職員間では、子どもたちの活動をドキュメンテーション(写真を用いた活動記録)で表現し、どのように保育に展開できるかなど意見交換を重ねてきました。保護者の皆様にも、ICTシステムを活用し、活動の様子をお伝えすることができました。



サークルタイムでどんなことに興味を持っているか話を聞きました。すると「色々な色を使って制作したい!」「虹色を作りたい」と色に興味を持っていることを発見!!



絵の具やサインペンを使い、様々な技法で制作。子ども達は、色づく様子に面白さや不思議さを感じていました。



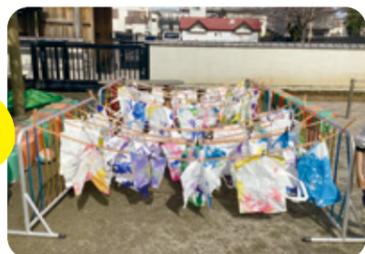
運動会では、子どもたちの提案で包帯を一人一人好きな色に染めて腕に付けてダンスをしました。

年中児(ゆり組)の1年間の取り組みをご紹介します。



色の混ざりあいを楽しむお友達が多くなってきました。

きれいな色に混ざったよ!



1年の集大成に自分の作品を入れるバッグを染めました。布を染め、どんな風に色付くか体験してから本番に!自分だけの作品バッグが完成!



カッコイイ!

どの色にしようかな~?



こどもと地域

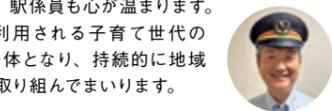
~まなびにつなぐ 未来へつなぐ~

子どもの主体性を尊重する“わくわく保育”の実現には保育者だけでなく地域の方の力も必要不可欠です。当園では、「こどもの笑顔は未来を変える。」パートナー宣言をしている小田急電鉄小田原駅様と約3年前から連携し、小田原駅に四季に応じた園児の制作を展示したり1日駅探検をしたりして、駅員さん達と“わくわく”を交換しています。子どもは、やがて社会を変える、社会を支える大人になります。今、子どもの育つ環境は家庭や保育園の中だけではないのです。“社会”つまり地域の人との出会い、それを通じた様々な体験が未来に繋ぐ大切な学びとなります。今後も小田急電鉄様をはじめ、地域の方々と子どもの育ちを支えるまちづくりができればと考えています。



小田原駅は1日約55,000人の乗降があり、箱根の玄関口として多くのお客さまにご利用いただいております。季節に応じた園児の皆さまの展示品は、多くのお客さまの目に留まり、楽しめる姿を見て、駅係員も心が温まります。今後も小田急をご利用される子育て世代の方々や地域と駅が一体となり、持続的に地域活動ができるよう取り組んでまいります。

小田急電鉄小田原駅 後藤管区長



ありがとう

小田原乳児園・小田原愛児園PTA

伝統的「PTA」から新しい形へバージョンアップ

小田原乳児園・小田原愛児園では、保護者の方々が中心となり、職員と一緒に運動会や生活発表会をはじめ、園内行事のサポート活動や、講演会の企画運営、子ども達へのご褒美の準備など、数々の活動を行ってまいりました。保護者の皆様と一緒に活動した餅つき大会や夏祭りなど、楽しい思い出がたくさんあります。しかし、時代の流れと共に、役員の選出の難しさや会費管理の大変さ等、課題も多くなりました。昨年度の役員の方々と話し合いを重ね、会員の皆様には書面にてご意見を伺いながら、「PTA」という形での活動を終了する運びとなりました。これまで皆様には、たくさんのご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。そして、これからはまず園が主導する新たな形でスタートし、保護者の方や地域の方との繋がりを一層大切にしていきたいと考えています。



Supporter Activities



Recycling Activities

NEWSTYLE!

「スマイル😊サークル」

会のネーミングは保護者の皆様より公募!

◆リサイクル活動

制服のリサイクル、不要なタオルを回収し雑巾作りなど

◆園行事サポーター活動

運動会などの園行事のお手伝い、小物作り、保育活動のお手伝いなど

◆集い・語り・学びの場

保護者同士や職員、地域の方と繋がり、学びを深める機会や、語り合う場を提供し、子ども達への思いを共有。また、保護者の方に「ホッと一息」リフレッシュできる場としての提供など

新しい形で

スタートします!



6月に実施しました!

「こどもかいぎ」動画鑑賞&「おとなかいぎ」

子ども主体の保育を目指していく中で展開しているサークルタイム。保護者の方にも保育内容を理解していただく機会として動画鑑賞会を行いました。たくさん保護者の方にご参加いただき、鑑賞後には「おとなかいぎ」として保育士も一緒に入りながら、意見交換や子育てについての悩みを語り合いました。



防災講演会&フェア

親子で防災について考えよう!地域の方も歓迎!
●非常食試食 ●防災紙芝居絵本読み聞かせ
●折り紙食器作り ●園の備蓄品紹介 など

13:15~
防災講演会(保護者のみ)

14:30~
各種体験コーナー

11.9 土

小田原愛児園4階ホール

こんな企画をしています!

アンサンブルソノーレさん

ミニコンサート&手作りおやつ試食

毎年子ども達にクリスマスコンサートを行ってくださるアンサンブルソノーレさんのバイオリン・ビオラ・チェロの三重奏です。素敵な音色に包まれ、癒しの時間を過ごしましょう。また、園内で人気の手作りおやつを試食しながらティータイムをしませんか。

12.20 金

13:30~15:00

小田原愛児園4階ホール



小田原乳児園

事業内容：保育園 0歳児30名、1歳児50名、
一時預かり保育（れんげ組）

所在地：小田原市浜町1-2-15

電話番号：0465-22-3736

REPORT 実践報告会を実施しました

隣のクラスはどんなあそびをしているのかな？から始まった実践報告。実践報告会は、年2回全職員が集まり、各クラスの保育の取り組みを動画などを使い報告し、意見交換をしました。今年度は小田原愛児園やほうあんうみ・ふじの先生も参加し、乳児園のあそびなどを知ってもらうことができました。



何か入っているかな？

冷蔵庫

アイロン

掃除機

手作り玩具は紙、段ボール、廃材、プラスチック容器、発泡スチロールなどでできています。

【実践報告】うめ組(0歳児) 手作り玩具であそぼう

職員の手作り玩具であそんでいる様子を報告しました。実践報告をすることにより、玩具やあそびの共有ができました。

ジャージャー

流し台

ザブザブ

パパやママと一緒にあそぶことができたよ♡

親子おあそび会

4年ぶりに親子おあそび会を開催しました!! 親子おあそび会は、各クラス年1回、土曜日の午前中に園でのあそびを親子で楽しめます。うめ組のおあそび会では、職員の手作り玩具を保護者にも知ってもらうことができ、実践報告>職員間の共有>保護者との共有につなげることができました。保護者からは「子どもと一緒に普段の園での遊びを経験できて楽しかったです!」などの感想をいただきました。



なぜウクレレで歌うのか

「大空の下で伸び伸びとみんなで歌えたらいいな」と思い、どこでも気軽に持ち出せるウクレレを取り入れました。現在、私のまわりにはいる子ども達はまだ歌を歌えない子が多いですが、感動するほどに音を楽しむことができます。視線をこちらに向けて音を聞いて笑顔になったり、体を左右に揺らしたり、それぞれの感じ方や表現をすることができます。私はみんながそれぞれの楽しみ方をしてくれるのが嬉しいです!そして、それが保育の中で私が大事にしたいことの根幹であると感じています。これからも小さな仲間たちと表現を楽しみたいと思います。みんな、いつもありがとう!

(たんぼ組 中山里奈)



ほうあんホット相談カフェ

事業内容：指定特定及び指定障害児相談支援事業、
1市3町委託相談支援事業

所在地：小田原市本町2-4-12

電話番号：0465-44-4381

REPORT ケース検討会を通じた人材育成

相談支援専門員の日々様々なケースに接する中での経験をもとに、法人内の通所施設、入所施設で支援を行う若手職員を対象としたケース検討会を開催しました。支援力の向上及びソーシャルワーカーの視点を持った職員育成に取り組みました。

ほうあんふじみのさと 入所担当 松崎さん

意見を聞くことで新たな発見や違う角度から物事を見ることができました。人を理解するには時間がかかると感じました。



ほうあん第二しおん 支援員 平山さん

希望を丁寧に汲み取ること、一番いい方法を本人、家族と共に考えて支援をしていくことを知りました。



ほうあんのぞみ 茶のまある担当 稲木さん

視点を変えて、事業所を超えた支援者間で共有してヒントを得ることが大切だと感じました。



検討したケース

CASE 1

引きこもりで在宅生活をされている方への支援



CASE 2

老健介護で、在宅での生活希望の支援



CASE 3

キーパーソンのご家族が重篤な病気で、お子様に障がいがあり支援が必要な方の世帯支援



取り組めたこと

- 1 支援者側だけで決めつけず、ご本人に寄り添って違う視点を持つ「リフレーミング」は、第1回のケース検討で行ったことで、それ以降もその視点を持って取り組むことができました。
- 2 発信力については、現時点で支援をしている事業所での経験の差があり、自信の無さから発言が少なくなることもありましたが、それぞれ不明な用語を調べてくる取り組みを第3回で行うことで、わからない時は調べるという事前準備の大切さを知ることができたと参加者の気付きから読み取れました。
- 3 この3回を通じて、地域との繋がりや制度、資源について知り、それぞれの事業所で支援のヒントやケース会議に生かせると感じたことは成果だと思われそうです。

写実派 藤田達朗さんのお茶の間展開催

子どもの頃から長年絵画が大好きで素敵な絵を描いてきた藤田達朗さん。5年ほど前に一度、お茶の間展を行ってから、「次のお茶の間展はいつですか?やりたいです」とご本人から相談員にお話がありました。そして今年度、2度目の開催が決定! ご本人、お母様、絵画教室の先生、茶のまある職員や相談員で、たくさん描きためてきた作品の中から14点を選びました。会期が始まり、作品が展示されると

「あ、僕の絵だ!」「見てください!」と嬉しそうにお話しされました。また、お知り合いの方が毎日のご来店くださり、作品を鑑賞されていました。会期中にはタウンニュースの取材もあり、その記事が掲載されて、ご本人もとても満足気な様子で、支援者にとっても嬉しい出来事でした。
(相談支援専門員 柳沢杏子)

- 1. 茶のまあるで働く様子の自画像
- 2. 自画像と同じポーズをとる藤田さん





ほうあんうみ

児童分野5事業所 ケース検討会

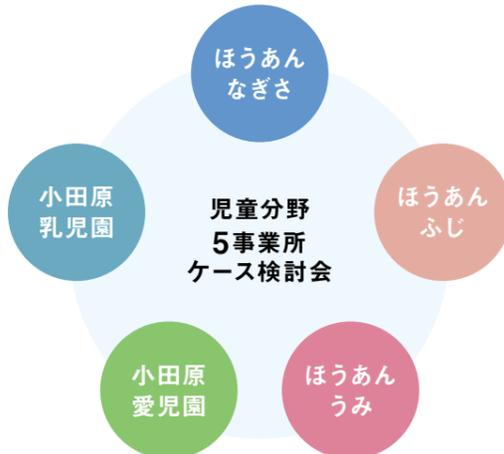
令和6年度、児童福祉法が改訂され、児童発達支援センターが地域の中核機能を担えるよう機能強化が求められています。ほうあんうみでは、職員の支援技能向上のために法人内の児童分野5事業所（小田原乳児園・小田原愛児園・ほうあんなぎさ・ほうあんふじ・当園）と2年前からケース検討会を実施しています。昨年度は9回実施しています。

この検討会では主任以上の職員が集まり、具体的な事例を通してお互いの支援について意見を持ち寄り、子どもの成長発達についての理解を深め、より良い療育・保育のために議論を尽くしています。保育園、児童発達支援センターとそれぞれの社会的な役割や支援内容の違いを理解しお互いの良さを生かし、支援上の課題について助言するようにしています。検討会には、ほうあんなぎさから大屋児童精神科医師や遠藤言語聴覚士も参加し、医学的・専門的アドバイスをいただいています。就学前の大切な時期を支援していますが、就学後の姿だけではなく、大人になった姿を見越しながらの支援が大切だという視点を持ち、家族に対する支援においては長いスパンに立ち関わる大切さを共有しています。

今後は、この検討会に主任以外の職員も参加できるようにし、職員全体のレベルアップを図っていきます。

事業内容：児童発達支援センター 定員30名
保育所等訪問・発達相談
所在地：小田原市本町2-4-12
電話番号：0465-44-4597

Case Discussion



理学療法士の視点より

お子さんの靴選びで大切なこと

皆さんは、お子さんの「靴」に関してじっくりと考えたことはありますか？ 「靴」はただ単に履ければいいものではないのです。

お子さんは日々成長していきますが、お子さんを支える「足」も日々成長していきます。そこで「足」に合わせた「靴」も選ぶことが大切になります。

まず、日々成長していく「足」に関して皆さんはご存じでしょうか？

- 【1】骨の数：カラダの約1/4の骨が足にあります。
- 【2】構造：靭帯、筋肉、腱などの多くの柔らかい組織で構成されています。
- 【3】衝撃：歩いている時は体重の1.5倍、走っている時には体重の3～4倍の負荷が足にはかかります。

何気ない「足」ですが、実は縁の下の力持ちの存在なのです！

そんな縁の下の力持ちの「足」。ということは「足」を覆う「靴」はもっと大事になります。

理学療法士 佐藤綾平

最近のブーム：
小田原近辺の食べ物屋探し
娘のブーム：歌、大人の所有物
家族のブーム：お出かけ



「靴」を履くときは、足に合った靴を選びましょう。



靴の曲がる位置のイメージ

- 1 **フィット性** 自分にあったサイズ、足の形状に合ったもの。お子さんが履く際には**中敷きと素足を合わせて確認しましょう。**
- 2 **支持性** 踵が簡単に潰れないもの、履き口がしまったもの。お子さんが履く際には**実際に履いてぶかぶかではないか確認しましょう。**
- 3 **固定性** 靴は脱げないことが大事。ベルトでしっかり留まるもの。お子さんが履く際には**ベルトはしっかりと留めましょう。**
- 4 **屈曲性** 足の曲がる関節と靴の曲がる位置が合うもの。お子さんが履く際には**実際に見て確認しましょう。確認が難しい時は、靴だけでも動かしてみ、お子さんの足に合うか見てみてください。**

靴を選ぶ大きな4つのポイント



ほうあんふじ

事業内容：児童発達支援センター 定員40名、
放課後等デイサービス 定員10名、
保育所等訪問・日中一時支援
所在地：小田原市曾我大沢7
電話番号：0465-41-4010

家族とのつながりを大切に

新型コロナウイルスの感染対策により、しばらく滞っていた園児の家族と園との密な繋がり。令和5年5月に感染症法上の5類へ移行したことを機に、家庭と園との距離を縮めるための様々な取り組みを進めました。再開した家庭訪問の実施後にはアンケートをとり、多くのご家族から「園との距離

が近くなりました」「家での様子が伝わりやすくなりました」などの言葉をいただきました。子どもの健全な発達は、家庭での養育と園での療育が一体となって実現することをご家族、職員共に改めて実感し、今後も支援に深みが増すよう取り組みを進めていきます。



食生活を豊かに

数年前から始めている食材への関心を高める取り組み。これまでも園児と一緒にたまねぎやきゅうり、トマト、かぼちゃなどを収穫し、園の厨房で調理したものを給食で提供してきました。令和5年度は聖護院大根を栽培し、園児と一緒に収穫しました。多くの子どもたちが好きな絵本に『大きなかぶ』があります。聖護院大根をかぶに見立てて「うんとこしょ、どっこいしょ」。収穫した大根を子どもたちが自宅に持ち帰り、ご家族から「普段は野菜が苦手なのに一緒に持ち帰った大根を調理したら食べてくれました！」との報告を受け、食へのアプローチの大切さを実感した一コマでした。

言語聴覚士の視点より

ことばとコミュニケーションを育てるために

ことばの育ちの土台となるのは「早寝・早起き・朝ごはん」です。当たり前のことのようにですが、規則正しい生活が子どもの健康と脳の成長をつくり、お母さんお父さんとの信頼関係や安定した愛着の形成に繋がります。

また、コミュニケーションが育つためには人に伝えたいという意欲、「楽しい、もっとやってほしい」という気持ちが大切です。一緒にあそぶときにはなるべくお子さんの視界に入り、子どものサインを見逃さないことが重要です。そして、「楽しいね」「○○できたね」というように子どもの気持ちを共感的に受け止めることで子どもはやりとりの楽しさを学んでいきます。

ことばを育てるためには、子どもの見ているもの・興味を示しているものへのことばかけが有効です。また、ことばは覚えさせるもの、言わせようとするものではなく日々の生活のなかで繰り返し聞かせることで自然と覚えていきます。子どもはお母さんやお父さんの言動をよく見てよく聞いています。子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもを見守ること、受け止めることが大切です。

子どもとのよりよいコミュニケーションをとることで、ことばを育てようとする方法に「インリアル・アプローチ」という方法があります。このアプローチには基本姿勢／技法／会話の原則がありますが、今回は基本姿勢についてご紹介します。

- Silence:**静かに見守る
子どもが場面になれ、自ら行動を始めるまで「静かに見守る」姿勢
- Observation:**よく観察する
コミュニケーション能力や情緒、認知、社会性、運動など発達状況を「よく観察する」姿勢
- Understanding:**深く理解する
子どものコミュニケーションの課題や問題について「深く理解する」姿勢
- Listening:**耳を傾ける
子どものことばやサインに十分に「耳を傾ける」姿勢

これらの頭文字をとって基本姿勢「SOUL」といわれています。ことばやコミュニケーションの指導に広く使われているもので日常の中でも意識せず行われているものもあるので是非試してみてください。

言語聴覚士 山本楓

最近のブーム：旅行先で地元の人に
美味しいお店を聞いて行くこと
趣味：温泉、映画鑑賞



実際にやってみましょう！

ほうあんのぞみ

REPORT B型事業所からの就職 そして、夢の実現に向けて

令和5年度、ほうあんのぞみの利用者6名（内訳：就労移行3名、B型事業3名）が就職することができました。今回はB型事業から就職したお一人Aさんをご紹介します。

Aさんとの出会い

平成28年に就労移行支援事業の利用を開始。手先の器用さや、作業手順の理解力が高く、ご本人の能力は高いものの、働くための動機が得られず、就労継続支援B型事業へ移籍しました。

目的意識をもつことで 就労意欲向上へ

「働いてお金を稼ぎたい」そう思ったのはあるきっかけがあってから。それからは今までぼやけていた就職のイメージが段々とピントを合わせるように、「バックヤードの仕事がいい」「難しい仕事にチャレンジしていきたい」「食品関係の仕事が良い」と、イメージに合致する就職先を探す段階に入りました。



社員さんに教わりながら作業に取り組むAさん

就職先の開拓に取り組む

県西地区は、採用難で人手不足となっている中小企業も多く、障がい者雇用の経験がないことで踏み出せていない企業がまだまだあります。そこで、まず一人目を実習から始めてみてはどうかと、箱根湯本で老舗の和菓子屋を営む有限会社ちもとの杉山社長にご提案し、見学と実習を行うこととなりました。

実習そして就職へ

実習は従業員の皆さんがとても明るい雰囲気です。餅を包丁で均等に切る作業では、ほうあんのぞみでの調理経験が生きており、説明を聞いてすぐに餅を決められたサイズに切ることができました。その後も温かく受け入れていただいたことで、ご本人が安心して実習を行うことができました。Aさんも「ここで働いてみたい」会社側も「ぜひ働いて欲しい」と、両者の想いが合致し、無事就職へと至りました。

事業内容：就労継続支援B型50名、就労移行支援8名、就労定着支援・日中一時支援、共同生活援助4名

所在地：小田原市浜町1-2-15

電話番号：0465-22-8837



Instagram @chanoma7

有限会社ちもと 杉山社長からのメッセージ

Aさんが就職して、6カ月が経過しました。初めての障がい者雇用ということで、一緒に仕事をしていく上でどのように教え、接するのが良いのかと現場の社員・パートの方も心配していましたが、実際に働き始めると、真面目に取り組む、教えた作業を正確にこなす、早くも頼れる戦力になっていきます。彼は口数少なく、もの静かですが、周りをよく見ていて他の人のフォローもしています。そうした中、彼が仲間に加わった事で、現場の社員やパートの方も分かりやすい言動や作業の進捗なども相互に配慮する意識が以前より強くなり、職場環境も良くなったと思います。これからもみんなでお互いの長所を伸ばし仕事に取り組んでいきたいと思っています。



利用者自身の自己決定の取り組み

プレミアム土曜稼働編

自分の事は自分で決める機会をもっと提供したいと考え、今期は、自治会活動を通じて、土曜の余暇活動の行先や食事など様々な部分を利用者自身で自己決定するよう取り組みました。「自分たちでどんな旅行にするかを企画しよう！」と利用者自治会で投げかけると「なんでも良いよー」え？企画前の企画倒れ……？でも気を取り直し。「時間をかけてもっと話そう！」6月、7月の余暇活動の際に茶話会を行いリラックスした雰囲気の中で、行きたい場所、やってみようことを話し合いました。最初は同じ人ばかりが発言し、他の人はその人たちに進行をお任せして消極的な印象でしたが、回を重ねるごとに発言をする人が増えていきました。事前に資料を掲示し、プロジェ



クターで候補地のHPや動画を一緒に見ました。話し合いの結果、伊豆・三津シーパラダイスか藤子・F・不二雄ミュージアムに絞り込まれました。それぞれの目的地のアピールポイントとスケジュール、費用、心配なポイントをまとめたチラシを作り、アンケートを配布し、投票した結果は……。伊豆・三津シーパラダイスでした。当日はお天気にも恵まれ、水族館で楽しんだ後は何を食べるか？どんなお土産にするのか？みなさん一人一人の意見や選択で実現し、これまで以上に楽しい1日になったと思います。

自治会活動の様子は、ウェブマガジン「ほうあんのぞみ利用者自治会によるプレミアム土曜稼働への道のり」。当日の様子は、「ほうあんのぞみ利用者自治会によるプレミアム土曜稼働 本番編」でご確認いただけます。

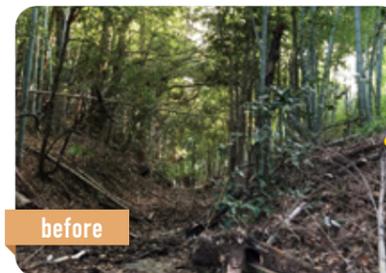
ほうあん第一しおん

地域貢献＝地域作業



片浦Re農地作業

小田原片浦地区では市民の力で耕作放棄地を整備し、農地のリノベーションに挑戦している「Re農地」というプロジェクトがあります。そこへ私たちほうあん第一しおんも参加し、作業をさせていただいております。少しずつ柑橘系の収穫作業や摘果、草取りなどを進めるなか、今では柑橘系の注文受付と出荷作業まで行うようになり、作業に幅が広がりました。



before



after

事業内容：就労継続支援B型50名、生活介護10名、放課後等デイサービス10名、日中一時支援6名

所在地：小田原市根府川389

電話番号：0465-29-0146



Instagram @houandyshion

Instagramで日々の活動を発信しています。是非ご覧ください。



根府川古道の整備事業

「天正庵跡」が事業所の近くにあります。そこは、天正18年（1590年）豊臣秀吉の小田原戦役の際、秀吉が千利休に命じて、大野五郎兵衛の屋敷内に茶室を設けたところと伝わる話があります。台風などにより荒れ果てた古道を復活しよう！と職員と利用者が一丸となり、片付け清掃を月に一度実施してきました。その成果もあり、昼休みに運動で古道をウォーキング道に使用することができ、利用者の活動にも広がりを見せました。

職員と利用者が力を合わせ、台風や大雨に邪魔されながらも一年かけて整備しました。

めざせ工賃向上

公益財団法人ヤマト福祉財団様より
車輛の購入資金として助成*を受けました。
パン販売や納品に使用します。
この度は誠にありがとうございました。

*障がい者給与増額支援助成金





ほうあん第二しおん

事業内容：生活介護40名、短期入所4名、
共同生活援助6名、日中一時支援

所在地：小田原市根府川383

電話番号：0465-28-2250

REPORT 行動障害を有する方の支援

【基本的な考え方】

利用者を支援するということは「行動」を支えることで、利用者とその周囲の人々の「行動」を読み取り、正しく支援する能力が必要となります。そのため「応用行動分析」の考え方をベースに特性上の特徴を加味して支援しています。

【運動プログラムについて】

歩行は月曜から金曜の午前中に行っています。基本的に特性別に対応しており、個別またはグループに分かれ、歩行距離・速度・場所などが変わります。

ロングコースは車で移動しての公園や遊歩道での散策、施設前の県道歩行は自然豊かに山と海を見下ろす最高のロケーション、のんびりコースは施設外周を草木を愛でながら歩きます。夏場(7月～9月)は2F屋根付きピロティ部分に設置した簡易プール(2台)での水遊びや1F玄関前広場でのミストを実施しています。

【構造化と自立課題】

基本的に自閉傾向の特性をもつ利用者には、月・水・木・金の午後に TEACCH プログラムに基づいた自立課題を提供しています。構造化されたワークルームへ移動し、職員と関わらない時間を設け、自分で「始め」と「終わり」を理解することで「自己効力感と達成感」を養います。

構造化とは一見難しいことに思えますが、世の中の多くに構造化が見られます。例えば公衆トイレの男女別マークやバスの運賃表なども構造化の一部です。ここでは利用者が活動場面において環境設定やスケジュールの提示などによって、何をすべきかをわかりやすく提示する方法のことを指します。自立課題の有効性は様々ありますが、特に「自立を育てる」ことに注目しています。自閉症の人にも自己効力感や達成感を得たいと思う気持ちは強くありますが、社会性の障害により、「始め」と「終わり」を自分でコントロールしにくい特性があります。自立課題という小さな構造体から社会性を学び、支援者と関わらない時間を確保して緊張感を除く取り組みをしています。



スケジュールが決まっていますと安心して楽しく歩けるなあ。

【職員】車に乗って(つまりドライブ)から歩行するので参加率がUPしました。



Bさん

気になるものもなく、歩きやすい場所がいいね。

【職員】周囲が気になり歩行が難しい方でしたが、職員2名体制で歩き始めて、徐々に距離を延ばし、今は公園でリラックスして歩いています。



Cさん

夏は暑くて歩行したくないからプールは最高だね。俺たちの気持ち分かってくれて嬉しい。

【職員】皆さん大変喜んでくれて職員冥利に尽きます。



Dさん

Eさん

見てすぐに何をやるのか、どのくらいやるのかが分かって、安心して作業に取り組めるね。構造化して素晴らしいね。

始めと終わりが苦手な僕でも理解できるし、スケジュールを組んで自立課題の準備しておいてもらえば、職員がいなくても平気だね。つつい居心地がよくて長居してしまうよ。

【職員】一つの部屋を構造化することによって、最大8名の利用者さんが同時に作業できるようになりました。自立課題の名の通り、自立を育て、自己効力感と達成感を養っていただけているのではないかと感じています。



Fさん

自分の特性に合わせて個室を準備してくれて感謝しているね。イライラすることなく、朝から帰りまで安心して過ごすことができるね。できれば給食に好きなものをたくさん出して欲しいけど。

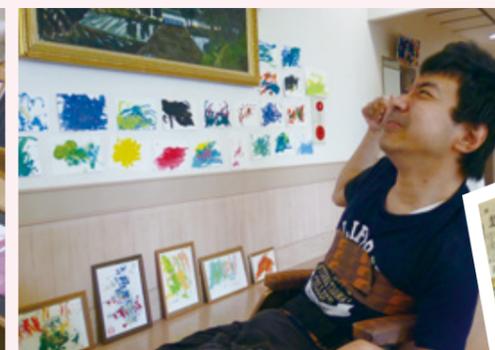
【職員】個室で過ごす前はイライラすることが多く、手を噛んだり大声を出したりと自傷も激しい方でしたが、一日のスケジュールを提示して、個室の中でワークスペースとプレイエリアを上手に利用して過ごされています。

絵から広がった僕の世界

幼い頃から絵を描くことが好きで、周囲から褒められることも大好きな利用者さんと職員が、3年間温めていた個展開催の企画を実現させた事例を紹介します。絵の選定からレイアウトまで、ご本人の意向を最大限尊重して個展を開催しました。新聞報道をきっかけに、恩師や旧友が来場し旧交を温めた他に、一般市民の方の来訪もあり、障害福祉の啓発にもなりました。



山本洋平さん(38歳)
日中は生活介護、
夜間はグループホームを利用



新聞に掲載されました!

絵の具の色を自分で選び、力強いタッチで黙々と描きます。
何に見えますか?

▼ お母様からのコメント

人に優しく気遣う性格で、母の日に絵をプレゼントしてくれたことがあります。我が子ながら、力強い筆遣いでよく描けていました。周りに人達と一緒に楽しんでいる環境を作ってもらい、職員の方には感謝しています。

▼ お客様からのコメント

我が子と同じ名前なので見に来ましたが、力強いタッチに驚きました。最近仕事で悩み、落ち込んでいましたが、絵を見て「何やってんだ俺!」と自分に喝を入れました。

▼ 職員からのコメント

会期が始まると初日から、洋平さんのご友人の方・第二しおんの利用者の皆様・学生時代の担任の先生など、本当にたくさんの方が作品を見に来て下さいました。ランチを自当てに来られたお客様も自然と作品をご覧になり「この絵はどんな方が描いていらっしゃるんです

か?」と聞いてくださる方もいました。洋平さんの絵は、力強さと柔らかさとちょっと遊び心と、見る方によって色々な印象を抱くそんな作品でした。お客様からも「いや～これは鯛だよ」「でもここが尾びれだから、タツノオトシゴだよ」など、洋平さんの心を想像しながら、

作品の周りで皆が考え込む……なんて光景がよくありました。洋平さんの素敵な作品のお陰で、1か月間毎日温かい雰囲気にも包まれた茶のまあるでした。また第二回の個展、いつでもお待ちしております! (茶のまある 稲木店長)

県西地区地域移行推進民間提案事業の進捗状況

神奈川県から委託を受けて令和5年10月に開始した当事業も2年目を迎え、様々な事が動き、形になってきました。主な進捗状況をご報告します。

REPORT 1 グループホーム連絡会

令和6年7月5日（金）小田原愛児園の4階ホールにて、第1回のグループホーム連絡会が開催され、グループホーム関係が31名、県西施設長関係が9名、行政関係が7名、計47名の参加がありました。

神奈川県障害サービス課や小田原市障がい福祉課からの行政説明があり、後半は6つのグループに分かれて、各事業所の現況報告と現在の困り感を話し合いました。出された意見では、人材の確保と定着、人材育成、支援困難ケースの対応が多くありました。

今年度はあと9月と1月に開催し、各グループホームで支援困難な事例の検討を行い、具体的な支援についてアイデアを出し合っており、施設長会や相談事業所とともに、課題の解決を目指したいと思っています。



REPORT 2 実践報告会

令和6年2月2日（金）小田原合同庁舎にて、県西地区事業所の実践報告会が開催されました。各事業所から30名の参加があり、生活介護では自立生活を目指す独自のアセスメントの紹介、農福連携の実績紹介の就労B型、就職とその後の安定した生活支援をも行っている就労移行支援事業所、入居からさらに自立を目指す共同生活援助事業所などの発表がありました。

発表の後は、交流を兼ねたグループワークを行い、様々な情報交換がされ、有意義な実践報告会となりました。令和6年度も、県西施設長会と連携して開催する予定で、学生や就職希望者の聴講も促していきます。



REPORT 3 研修動画作成

グループホームの世話人・支援員や障害福祉支援事業所の新人研修に活用してもらうために、県西地区独自で研修動画を作成しています。

令和6年7月末現在で障害特性（ダウン症編、自閉症編）や権利擁護編等、7本が完成しており、令和6年度も10本の作成を予定しています。

今後、配信方法を定めて、有効活用していただく予定です。



「地域障がい児支援体制強化事業」（令和6年度小田原市委託事業）がスタート！

子どもたちが幸せに生まれ育つ インクルーシブな地域づくりに向けて

ほうあんふじ・うみでは小田原市より本事業の委託を受け児童分野地域連携支援準備室（以下支援準備室）を中心に様々な取り組みを行っています。本事業は【1】児童発達支援センターの質の向上と人材育成【2】地域における障がい児支援の質の向上を目的としており、地域の保育所等への研修等を通じたインクルージョンの推進

を目的としています。お子さんが地域の中で幸せに生まれ育ち、ご家族が幸せに暮らしていただけること、お子さんやご家族に関わる地域の保育・幼児教育施設や児童発達支援施設での支援がより良いものとなっていくこと、そうしたことにつながられるように児童分野の多様な専門職が力をあわせて取り組んでいます。



親子すこやか講座の様子

■ 親子あそびひろば

ほうあんふじ・ほうあんうみへの通園を希望され、開始をお待ちになっている親子にご参加いただいています。お子さんの発達段階に応じた遊びや関わり方を親子で楽しく経験し、学んでいただくものです。その中で個別相談をすることもあります。毎月1回保育士・児童指導員・PT・OT・ST等が協力して行っています。

■ 親子すこやか講座

ほうあんなぎさで初診を予約し、希望された保護者に受講いただいております。お子さんの健やかな育ちのために大切な事柄（早寝早起き、適切な食事習慣、身体の育ちにそった運動や遊び、お子さんの情緒の育ち等）を保護者にお伝えしています。個別の相談にも応じています。隔月開催で支援準備室職員が担当しています。

■ 児童発達支援事業所連絡会

小田原市内児童発達支援事業所が一堂に集う会を企画いたしました。連携体制構築と各々の専門性向上を目的とします。今年度は事業所や職員の名前を知り合うこと、支援の取り組みを知り合うこと、連携できる事柄を模索することを主題に年3回行います。役職者・支援準備室職員等が出席し、意見交換を行っていきます。

■ ほうあん発達支援セミナー

未就学のお子さん方に接する保育士や先生を対象に上記セミナーを開催します。医師・臨床心理士・精神保健福祉士からインクルーシブな発達支援や集団の場での環境づくりをお話しする予定です。

11.30 ± 10:00~16:00
小田原市川東タウンセンターマロニエ

本委託事業の中で企画調整の仕事に主に担当しています。本事業は上記以外にも様々な活動があり、たとえば施設内での事例検討会や研修会、小田原市内保育所等訪問や健診業務への協力なども事業に組み込まれています。

私たち職員はひとりひとりが大切にされる社会がこれからも続いていきますことを切に願っています。地域の皆様方におかれましては、こうした取り組みをご理解いただければと思います。



児童分野地域連携支援準備室 / 山崎美由樹 遠藤重典

令和5年度 決算報告

貸借対照表（単位:万円）	
流動資産	82,970
固定資産	295,100
資産部の合計	378,070
流動負債	19,095
固定負債	33,398
純資産の部合計	325,577
負債及び純資産の部の合計	378,070

事業活動計算書（単位:万円）	
サービス活動収益計	153,195
サービス活動費用計	149,716
サービス活動増減差額	3,479
サービス活動外収益計	2,919
サービス活動外費用計	1,652
サービス活動外増減差額	1,267
経常増減差額	4,746
特別収益計	2,541
特別費用計	2,616
特別増減差額	▲75
当期活動増減差額	4,671

決算の詳細については
ホームページをご覧ください。

<https://houan1900.jp/about/disclosure/>



パン工房グウテの焼きドーナツ

～お歳暮や贈答用に喜ばれる逸品～



お歳暮・贈答用セット L

¥3,800 (税込)

プレーン・足柄茶・チョコ
キャラメル・シナモン・レーズン
各種3個ずつ 合計18個



お歳暮・贈答用セット M

¥2,600 (税込)

プレーン・足柄茶・チョコ
キャラメル・シナモン・レーズン
各種2個ずつ 合計12個

※送料は別途いただきます

お歳暮や贈答用に日持ちのする焼きドーナツ（消費期限1か月）は、いかがでしょうか。のし紙を付けての梱包や宅急便での配送、パン工房での受け取りなど、用途に合わせた対応が可能な商品です。

ご予約・お問い合わせ先

ほうあん第一しおん
パン工房グウテ

TEL 0465-29-0146
FAX 0465-29-0705



お弁当

キッチンのぞみ



唐揚げ弁当 700円



ミックス弁当 700円



メンチ弁当 700円



ヒレカツ弁当 700円



アジフライ弁当 700円



ネパールカレー弁当 700円

たっぷり玉ねぎに11種類のスパイス！
ネパールカレーのため鶏肉を使用



油淋鶏丼

並 700円 小 500円



ヤンニョム丼

並 700円 小 500円



チキン南蛮丼

並 700円 小 500円



ローストビーフ丼

並 1,000円 小 700円



国産若鶏の唐揚げ

100g(約3個) 220円



やまゆりポークのとんかつ

100g 500円



小田原産アジフライ

1枚 220円



揚げもの専門店

キッチンのぞみ

〒250-0004

小田原市浜町1-2-15 ほうあんのぞみ1階

営業時間/平日11時～17時45分

(注文受付17時まで)

お問い合わせはこちら

0465-42-9877



社会福祉法人 宝安寺社会事業部

〒250-0004 神奈川県小田原市浜町1-4-38

TEL:0465-22-7667(法人本部) FAX:0465-24-4411

https://houan1900.jp

houan1900

